



1 戦略策定に向けて

多くの人が多様な価値観をもって暮らし、活動する都市において、自宅、学校や職場とは違う、人それぞれにとって、居心地の良い特別な場所があることが大切であり、いわゆる**サードプレイス**が求められています。
名古屋の特徴でもある官民の豊かな空間を、多様な人にとって**居心地が良く歩きたくなるような人中心の場所～ウォーカブルな空間～**として再生することで、**サードプレイス**あふれるNAGOYAを目指します。

目指すまちの姿

居心地の良い特別な場所
サードプレイスあふれる「NAGOYA」
一居心地の良さで選ばれるまちへ

2 ウォーカブルなまちづくりの必要性

「ウォーカブルなまちなか」とは？

この戦略では、ひとりひとりに**居場所**があり、そこで**新しい出会い**や**発見**があり、そうした居場所が連続することで、もうすこし先まで**歩きたい**と思えるようなまちなかととらえます。



どんな良いことがあるでしょうか？

人口減少が見込まれる中で、地域の社会・経済活動が縮退しないよう発展的にあり続けるためには、人々の出会いや交流の先に新たな付加価値が生まれ続けること（**イノベーション**）や市民や来街者にとっての生活の質が向上すること（**ウェルビーイング**）、まちが持続可能であること（**サステナビリティ**）が必要です。

イノベーション
(新たな価値の創造)

まちなかに**多様な働き方**ができるような、また、起業・スタートアップが継続的に創出されるような、**機会と場**があれば、共創の好循環がおり、さらなるイノベーションを生み出すことが期待されます。

ウェルビーイング
(生活の質の向上)

まちなかにある居心地のいい場所は、住む場所、働く場所にとどまらず、個々の多様なライフスタイルの受け皿となる空間（サードプレイス）となり、**生活の質**を高めるとともに、来街者、事業者などにとっても**魅力的で豊かな場所**になります。

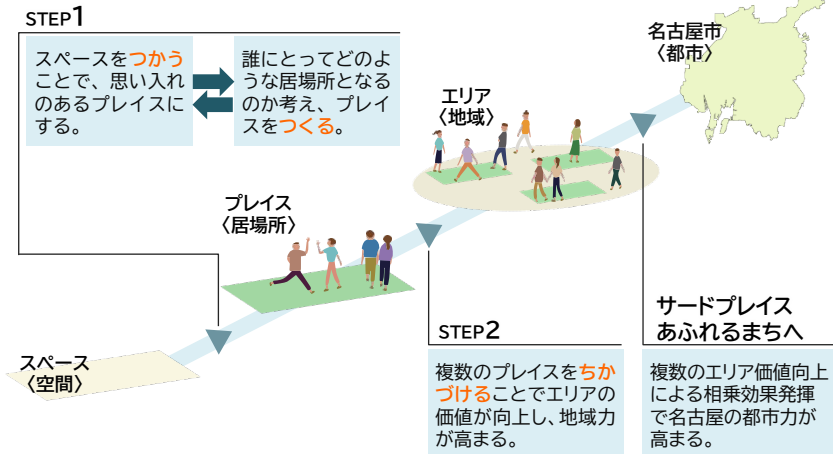
サステナビリティ
(持続可能なまち)

車中心から人中心のウォーカブルなまちづくりを進めることで、**二酸化炭素削減**にもつながり、持続可能なまちになることが期待されます。

3 ウォーカブルなまちなかの実現に向けた戦略

スペースをプレイスへそしてエリアに

以下のようなステップで取組みを展開していくことで、市内の各エリア（地域）の価値が向上し、結果として、都市全体にウォーカブルな空間が波及します。



戦略1 官民のパブリック空間をつかう (STEP1)

まちなかの道路、公園などの公共空間を居心地が良く歩きたくなるウォーカブルな空間として活用します。公共空間以外でも、民間で整備された公開空地や商業活動のためのパブリックな空間を居心地良く感じられる場所となるよう支援する取組みを進めます。これらにより官民のパブリック空間を使いやすくしていきます。

戦略2 新時代の都市デザインでプレイスをつくる (STEP1)

人々の思い入れのある、居心地の良いプレイスをつくるうえでは、アイレベルのデザインやグリーンインフラを活用するなど、そのデザインが重要になります。
デザイン都市としての、これまでの取組みをさらに発展させ、まちなかの居心地が良い空間をどのように使い、どのように維持・管理されるかまで含めてトータルにデザインする、新時代にふさわしい都市デザインでまちなかのプレイスをつくっていきます。

戦略3 プレイスどうしをちかづける (STEP2)

まちの賑わいを広げるために、居心地の良いプレイスどうしをつなぎ、ちかづけていくことが大切です。
今後は、距離や用途に応じた多様なモビリティにより、プレイスどうしの距離感を縮め、プレイスをつながる歩行者空間を豊かにし、心理的な距離感を縮められるようにします。デジタル技術も活用しながら、楽しく歩くことができる取組みも行っていきます。

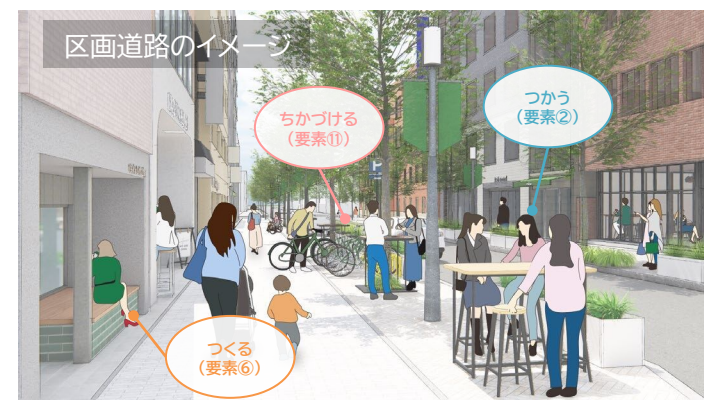
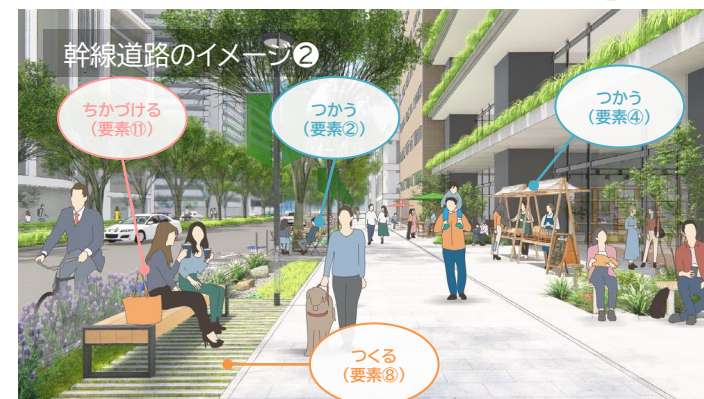
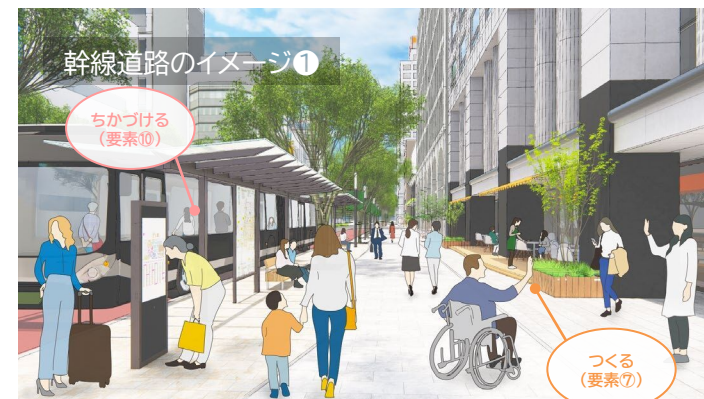
みなさんの思い・活動を行政がサポート

居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブルなまちなか」は、市民、来街者、企業、地域のまちづくり団体などの**みなさんが主役**です。
行政はまちを育てるみなさんの活動を地域まちづくり支援制度や規制緩和などにより支援していきます。
みなさんの力で、ウォーカブルなまちNAGOYAを実現しましょう。

4 ウォーカブルなまちを実現するための要素

居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちにするためには、次のようなウォーカブルなまちを実現するための要素を、**地域特性**などを踏まえて、**組み合わせ**て活用することが大切です。

戦略1 つかう	戦略2 つくる	戦略3 ちかづける
① エリアマネジメント ② 道路空間活用 ③ 公園活用 ④ 公開空地活用 ⑤ 低未利用土地活用	⑥ エリアリノベーション ⑦ 都市景観形成地区におけるアイレベルデザイン誘導 ⑧ グリーンインフラの活用 ⑨ 駐車場施策	⑩ 新たな路面公共交通システムSRT ⑪ モビリティ



5 ウォーカブルなまちづくりプロジェクト

本編には、ウォーカブルなまちを実現するための要素を組み合わせる市内各地で取り組むウォーカブルなまちづくりプロジェクトを掲載しています。